



|   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 元 | 中 | 二 | 病 | 愚 | 者 | の |
|   |   |   | し | ょ | く | 罪 |

## 三学期の終業式の日

丹生谷森夏は、同級生たちが下校する中  
一人で宿直室の前まで来ていた。

ここ数日の彼女の日課……しかし

彼女の意思ではなく呼び出されたのだ。

彼女の心は不安と恐怖で一杯だった。

それはもちろん起こることに対しての……



ある時、中学時代の黒歴史

中二病「モリサマー」の事を知られてしまう。

不運だったのは知られた相手が

森夏が普段から気味悪がっていた

生活指導の教師の男だった。

男はそのことを広めない代わりに

森夏に肉体関係を迫るのだった。

「おー丹生谷いもう来たのか  
今日もお願いするわ(笑)」

「……………♡♡♡」

「なに突っ立てるんだ？ 中に入れよ」

「わ、わかつてるわよ……」

（こんな奴の言らなじになるなんて……）





森夏は教師と条件を交わした。

中二病の事はばらさない代わりに代わりに

男の性処理を手伝う事。

男が森夏に触ること。本番はナシ。

春休みが始まるまで。

数日この条件に従い森夏は放課後

手と口で男の性処理の手伝いをした。

男が約束を守ると信じて……………





「お母さん...」  
 (お母さん...)  
 「お母さん...」  
 (お母さん...)

「お母さん...」  
 (お母さん...)

ガッパッ

カーッ

「お母さん...」

「お母さん...」  
 「お母さん...」

「んっ…んちゅっ…おんねん」

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

lov  
lov

ん♡

ん♡

びんび

「おお…そうやう…マジで重視だな」

「んっ…ちゅっ…おんねん」

(んっ…ちゅっ…おんねん…)











「あー、おどろいたわー」

「おどろいたわー...」

(おどろいたわー... びっくり)

ガポッ

スパ  
スパ

ガポッ  
ガポッ

「おどろいたわー...」

「おどろいたわー...」

「う!!」

「う!!」







事が終わると、森夏は帰る支度をしていた。

その時後ろから押し倒された。

何が何だかわからない内に下着は脱がされ

彼女の秘部はあらわになる。

男は最初から約束など守る気はなく

終業式という今日の日を待っていたのだ。

森夏を犯すために。









「おっ、腰尻をささってっるさな〜」

「おっおっおっおっ...!!  
んんんん...んんんん...!!」

ビクビク  
ビクビク

ズツ

ズツ♡

ズツズツ...

「さっ、意外とすんならささっさな」

「あはあ...んんんん...!!」  
（...ささささ...ささ...ささ...）

ビクッ

あッ

「ほーら、こんなに濡れてるじゃないか」

「俺のチ○ポを舐めて興奮したのか(笑)？」



はあ

ピクッ

あ

あー

は

「はー...♡はー...♡  
んは♡...♡ん♡...♡」

「すんなり指の本入ったところを見ると  
自分でも結構オナっつてやがったな」

トク...♡

ちゅ♡

ん♡  
ん♡



「おっ、それじゃあもうっせし持たせらるのをくらせやるか」

「おっ...っい...くらせ...っ？」

ズイ

ピッ

あ...

ふ...っ？

「(誰)がアッアッアッアッアッ」



「えッ!? やだやだッッッ!  
だめええそれだけはお願いッッッ!!」

「うるせえー! 今更がながた騒ぐなー!」

「まあゴメンは謝してやるからさあゴメンな」

ビクッ

たニッ!!  
たニッ!!  
たニッ!!

アッ  
アッ

ドキッ

!!

「ええええええええええッ!!」

ビクッ

ズキョ

「ふんふんふん——♡♡♡」

「おほっ♡初せのは更ら轉じつるなあ  
せりサマちゃんのおせのらななまきまじな」

ズニユレッ

ビクッ

ズッズッズッ

「ふんふんふん...め、技きなせらよお」  
（お、こんなキキに奴のがはらちゃつておうう）





「おはさつへはきつたさつ」

「ふねわらう... 抜きなせえ...」

「なめえ... 抜きなせいよお...  
キネいの入れるなあ... んんッ!」

あ!!

びく!!

びく!!

また!!

また!!

また!!

また!!

また!!



ピクンッ

「お母様、何で机に雪を落とすの？」

ガッ

「ぷんぷんぷんぷん」

パンッ

キュン♡

「あぁ？ 回りの景色が全部お母様の顔で埋まってる...お母様」

「んんんんんん...な、なにじゃこのおはち...」  
(うんうん...お尻叩くなんて...)

ハッハッ

「嫌がってる割に叩かれた時  
きゃんきゃん締めつけとったぞ」

ハッハッ

「うわ、ぞんぞん...は...うわ...」

はっ

はっ

「体は正直だよ(笑)  
Mの才能あるぞお前は」

あ

ビク

イタイ  
じやない  
んんん







「おそろそろ〜 かわいそうに〜」

キッ

キッ  
キッ

「きゅん〜 かわいそうに〜」

ズッ

（うう）  
後ろから突かれた感じがする…  
甲が刺さる感じがする…

「きゅん〜 かわいそうに〜」  
やめろ〜 かわいそうに〜

パッパッ

パッパッ

ズッパッ  
ズッパッ

「かわいそうに〜 かわいそうに〜」  
かわいそうに〜 かわいそうに〜

キュ〜

カッパッ

カッパッ



（母）おんなじおんなじのなまこ...  
おんなじおんなじのなまこ...  
おんなじおんなじのなまこ...  
おんなじおんなじのなまこ...

「おんなじおんなじ...」  
（おんなじおんなじ）

ドクンッ

どくん  
どくん

「おんなじおんなじ...」  
（おんなじおんなじ）



「今日は気持ちいいわー」

ハクハク

「あー…気持ちいいわー」

「んんん…あー…」

クワッ

キューン

「あー…気持ちいいわー」

タラッ…

はー

はー

んんん

あーあー



行為は続き。

もう外は暗くなりつつあった。

森夏も幾度となく絶頂に達し

意識を失う事も少なくなつた。

しかしその度に起こされ

再び犯されるのだった。







「おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！」

「おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！」

「おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！」

「おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！」

「おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！」

「おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！」

「おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！」

「おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！」

「おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！」

「おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！」

「おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！おきんぐでさーん！」











「おら〜年甲斐もなく  
久しぶりに入ッスルしちゃったな」

「明日から春休みだが  
お前はしっかりと学校に来らやうな」

は  
は  
は

「……………は……………」

「……………は……………」



「な、なんなのよッ！ この格好は」

「やっぱり元チア部だけあって

様になってるなあ」

「そういう話じゃないわよ！

胸だって半分出ちゃってるし…スカートも」



「いやあ職員室の落とし物の中にあっつな」

「ぜったい嘘よ…」

「コイツが作ったに決まってる

ホントキモい奴…」

「お前も... 気持ちいいよ」

「お前も気持ちいいよ... 汗が...」

「あ、あめ... 気持ちいい...」

カマッ♡

ムニ

モミモミ

ハチャハチャ

ちゅわんお

「お前も気持ちいいよ...」

（気持ちいいよ...）











「ほら、しっかりと動くんぞ  
そんな消極的じゃお持ちよへならな〜」

「う、うるせー…わね♡ん♡♡♡」

(き) 気持よへなんかならちよへ…(んまの)

ジュア!

「〜〜〜相変わらず強気な小娘だな」

「ん…♡ ぐう…はあん♡」

(き) 気持よへなんかならちよへ  
声が出ちゃうよお……(〜)

ジュア!





「えっ、ちよっ…なにすんのやー」

「かーんかーん、さあ、さあ」

「いやああッッ!!」

「ぜっならにキスなす嫌あッッッー」

ん…

グイッ

「おいおい、ここまでやっておいて  
今さらキスは嫌がっても意味ないだろ」

ぜったい、キス

「こんな奴にファーストキスまで…  
私のファーストキスまで奪われたくない!」





「んはあああ——♡♡♡」

(やらあああ飛んじやうよおおー)

ビクビク

♡♡♡

キューン♡

アハハハ♡

ビクッ

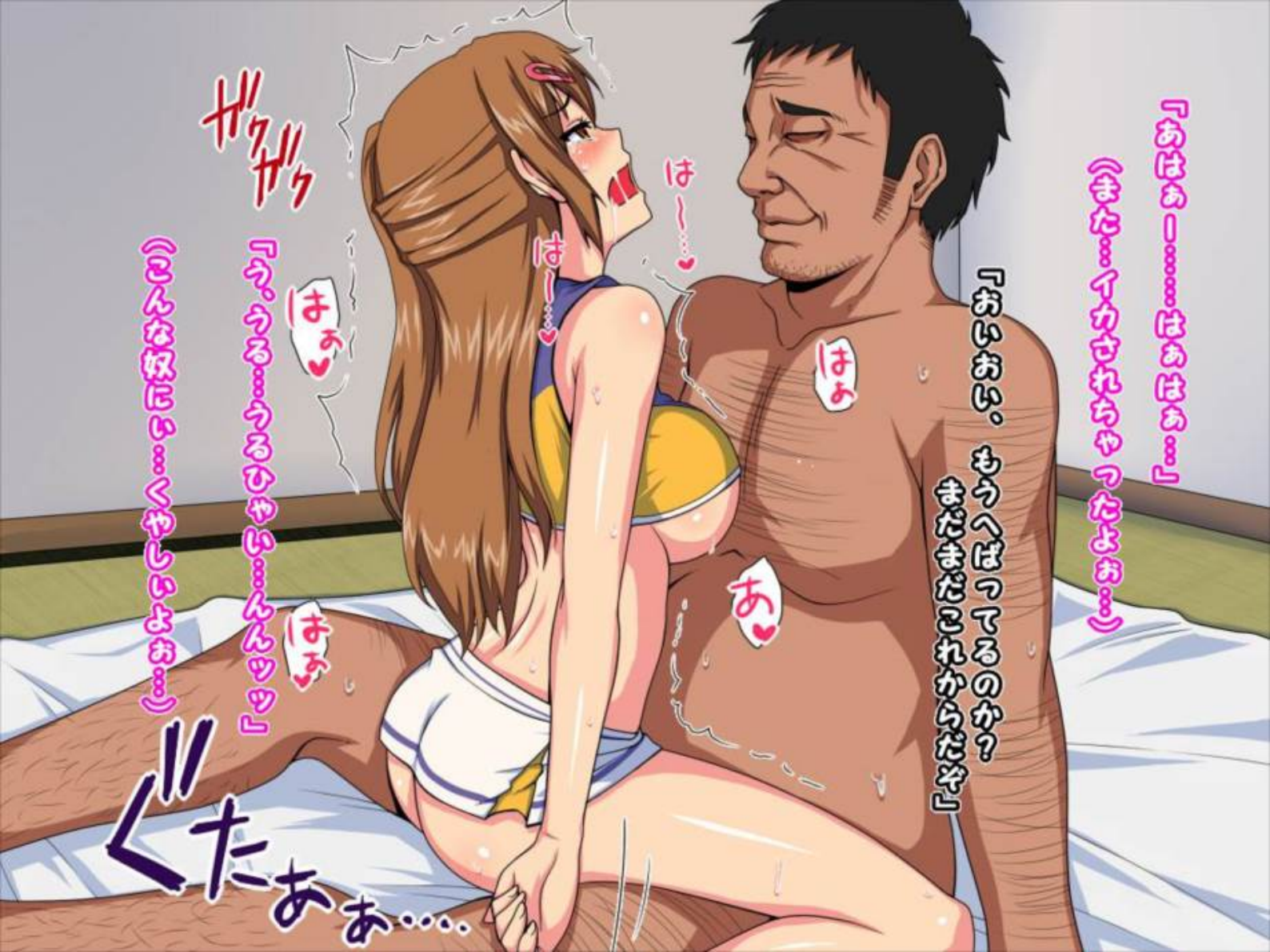
♡♡♡

「おほっ♡イッたのか」

「腰肉がズリズリ♡ズリズリ♡おっつてゑぞ」

「強気な割にお前は簡単にイッたなあ」





「あはあー……はあはあー」

(まだ……イカせられちゃったよお……)

「おらおら、もうへばってるのか？  
まだまだこれからだよ」

ほー……

ほー……

あー

あー

ハクハク

「んんん……んんん……んんん……」

(……おは……おは……)

ぐたあ……



「やあ…♡ こんな格好…んん♡！」

「ほら、見てみる  
俺のをくっばじくわえこてるぞ」

「あん♡んはあ…♡♡  
ぞ、そんなの知らなら…も♡ん♡」

「マキエグマキエにかき回されては  
わなしの身体おかしくなってるぞ」

キュン♡

キュン♡

又キュン♡

毛♡

やめ♡

ビクン♡











「あー、おっおっおっ」

「はぁ〜… はぁ〜…」

(またいっぱいイカせられちゃったよお  
こんな奴…嫌なはずなのに)

「お前も何回イッたか分からんたろ  
俺とのセックスにハマったんじゃなにか？」

は

ナインナイン

は

「べ、別に…  
全然ハマってなんかならわさ」

(ふ、ふん…ほんなの  
無理矢理やられたら…)  
む、(お母さん…)

は

は

ぐに… ああ…

27.1

「どうやらは昨日お前のケツをスイト見なな  
なんて言ったかななっけっ黒髪ロンドンの」

「……………」

（黒髪ロンドン……っかんまざんっ）

「さーらなああの黒髪ロンドン  
清楚っ感でっ度入っめならもんな」

「……………っ！！」

イラッ  
キッ

（ロイ……  
私をこんなにしておきながら）

（もう他の女子の事を……！！）





「いさなりそんな奥まで掻き回したらああ」

「ふ、別に濡らしてなん...んぐわっわっ」

あゝ

「うわっ...うわっ」

「おはらおはら、可愛ら奴ら、こゝ寝美た」

ピクッ

ピクッ

ズグッ

グチュッ

グチュッ

ん

ピクッ



ビクビク  
ビクッ

「んっ…うんええんっ…  
またキチャウからああんっ」

「んっんっ—んっ」

（まっ。うんええんっ）  
（んっ）

「心配するな  
お前だけをっっっっっっっっっっっっ  
「んっんっ」

ズチュッ  
ズチュッ  
ズチュッ

んっんっんっ

ズチュッ  
ズチュッ

ビクッ





「んはあ…あはあ…  
まひや…いっせははひやっなはあ…」

「んんんん お前はやるなだに  
どんどん感度がよくなっつらんのだ」

「あはあ…はあはあ…んんんん…」

ぴっぴ

（どうしよう…私の身体どんどんエッチに  
なっつて調教せられちゃってるのだあ…）

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

は♡

ガクガク

「お、おい。お前その髪の毛…  
いつたいてうしたんだ…?」

「な、何が?  
べ、別に! た、ただの気分転換よ」



「ただ黒髪ロングも  
良いかなあって思っただけよ」

「コイツまさかこの前の事気にして…  
ふん、可愛いじゃないか (笑) (笑)」

「まあいい今日は念入りに  
可愛がってやるからな」

「ほろ、自分だけよめる」

「ん...♡  
ん、ん、ん、ん、ん」

（あつ...熱らの中はくっつくべからん）

あ♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡...

「ん...は、ん...は」

ん♡

ん♡

ん♡  
ん♡

「ん...、じゃあ次は好きに動いてみる  
自分だけ気持ちよくなるんじゃならぬぞ」









「あ……♡……あ……♡……  
奥……♡……一番奥に……♡……」

「うほお、子宮口当たる度に  
膣内がキリッキリッキリッ締まるぞ」

あ♡

チリッ

チリッ

フツフツ

きゃ～♡

あ♡

「あはあんん……♡……  
腰があん……止まらならよおお♡……」

（なめえ♡気持ちよすぎると  
「一番奥に……♡……」）

シユッ

シユッ

シユッ

シユッ





「さっさと」

入ってる「ロ」が見えるなら」

「んん…ッおはめんッッッー  
うん…見えじや…見たらさうさう」

ズチユ

ズリユヅ

グハッ

ズリユヅ

ズリユヅ

（わたしのお…おママのロ…んんん…）  
ズリユヅおはめんおはめんおはめん（…うん…）









「んちゅう…んはあん…♡♡♡  
じゅごらのきたああ…♡♡♡」

ドチュッ

ドチュッ

ズチッ

「子宮ロケリケリに開けて  
直接射精てやるからな」

「ふうんんんー♡♡♡  
奥にドチュッてきてりゅう…♡♡♡」

「これえ入ってるぅ…  
子宮の中入っちゃてるよおお」

んほお





んちゃ♡

ちゅる♡

ちゅる♡

は♡

(お前さん...)

「んちゅ...んはあ  
ちゅる...れろお...」

ドクッ♡

ドクッ♡

ドロオ...

ドクッ

「おお絞られる...  
お前の身体も種付け悦んでるぞ」



「はあ...はあ...我ながらすごい量だ  
これは当たってしまっかもしらんわ」

「はー...せー...とせえ...」

(うおおおお...うおおおお...  
うおおお...うおおおお...)

(おはあ...おはあ...おはあ...  
おはあ...おはあ...おはあ...)

ドロドロ

ジュッ

ジュッ

ジュッ

ガッガッ

わー

わー

わー

わー

わー

|   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 元 | 中 | 二 | 病 | 患 | 者 | の |
|   |   |   | し | よ | く | 罪 |